



2024年10月10日

小田急電鉄株式会社  
(コード番号 9007 東証プライム)

## 小田急グループの鉄道・鋼索輸送によるCO<sub>2</sub>削減貢献量を算定！

～小田急電鉄、江ノ島電鉄、箱根登山電車、箱根登山ケーブルカーのご利用で  
自動車輸送と比較して年間約121万t-CO<sub>2</sub>の削減に貢献～

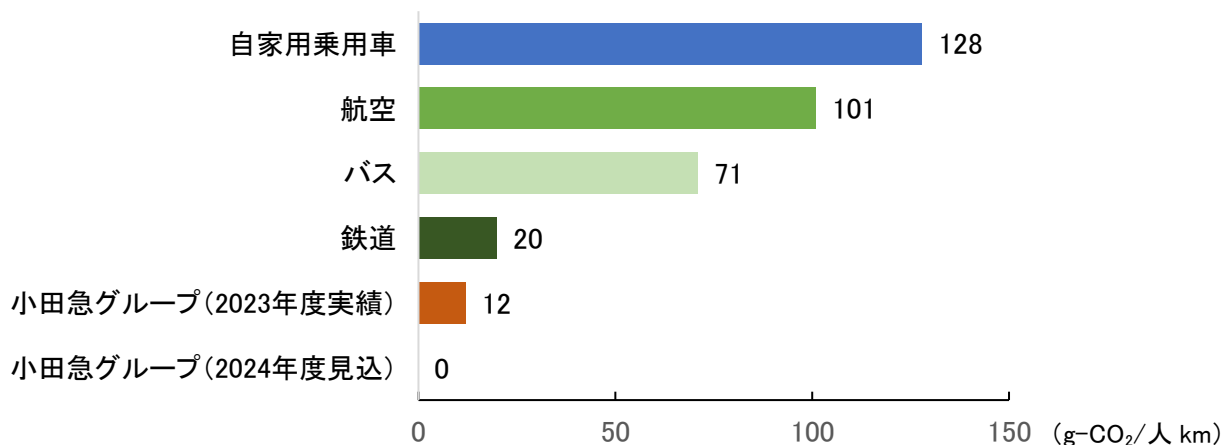
小田急グループでは、小田急グループの鉄道・鋼索輸送(小田急電鉄、江ノ島電鉄、箱根登山電車、箱根登山ケーブルカー)を通じて生まれたCO<sub>2</sub>削減貢献量を算定しました。

鉄道は、自動車や航空機と比較して環境優位性の高い輸送機関です。これまでも、小田急グループでは車両の省エネ化をはじめとした設備面から、マイカーに対する環境優位性を発信するとともに、MaaSの実現に向けた取り組みによるストレスフリーな移動の提供等を通じて、お客さまの公共交通利用を促してきました。

このたび、小田急グループの地域のCO<sub>2</sub>排出量削減への貢献が見える化することで、脱炭素につながるお客さまの行動変容をさらに促し、社会のカーボンニュートラルの実現に貢献していきたいと考え、CO<sub>2</sub>削減貢献量を算定・開示することとしました。

算定結果は以下の通りです。

旅客輸送機関別 単位輸送量当たりのCO<sub>2</sub>排出量



出典: 国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量」

小田急グループでは、旅客の鉄道利用に係るCO<sub>2</sub>排出量の算定ガイドライン(国土交通省 鉄道脱炭素官民連携プラットフォーム 利用促進・見える化WG)に基づき削減貢献量を算定しました。

小田急グループ上記交通網の2023年度の単位輸送量当たりのCO<sub>2</sub>排出原単位は12 g-CO<sub>2</sub>/人 kmであり、自動車輸送と比較して、年間121万t-CO<sub>2</sub>排出を回避しています。

例えば、お客さまが新宿から箱根(早雲山)まで旅行(往復)した場合、自動車輸送と比較して22.8 kgのCO<sub>2</sub>削減貢献が可能となります。この削減量は、ドラム式洗濯乾燥機(洗濯～乾燥)約32回分<sup>※1</sup>、杉の木2.6本が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>量<sup>※2</sup>と同等です。

なお、2024年4月から、特急ロマンスカーを含む小田急線、箱根登山電車、箱根登山ケーブルカー、箱根ロープウェイ、江ノ島電鉄、大山ケーブルカーで、運行に使用するすべての電力を実質的に再生可能エネルギー由来のものとし、CO<sub>2</sub>排出量実質0で運行していることから、2024年度以降の削減貢献量はさらに増加します。<sup>※3</sup>

2024年9月には小田急グループ初となるオンサイト PPA を海老名のロマンスカーミュージアムで運転開始しており、今後も小田急グループでは事業活動を通じたCO<sub>2</sub>排出量削減などの環境課題に取り組む行動指針「小田急グループ カーボンニュートラル2050」に基づく施策を推進していきます。

#### 【参考】

「小田急グループ カーボンニュートラル2050」について、詳細は小田急電鉄ホームページからご確認いただけます。

(URL) <https://www.odakyu.jp/sustainability/carbon-neutral/>

※1 ドラム式洗濯乾燥機(洗濯～乾燥)の消費電力量を900Wh、洗濯乾燥時間を120分と仮定

※2 林野庁「森林の二酸化炭素吸収力」([https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin\\_riyou/ondanka/20141113\\_topics2\\_2.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html))より

※3 2024年3月28日ニュースリリース発出 「小田急グループ交通網は、100%再生可能エネルギー由来の電力で運行開始」

(<https://www.odakyu.jp/news/b4fuqs000000y3x-att/b4fuqs000000y44.pdf>)

以上